

## 加藤由利子さんをしのぶ



### 御 略 歴

昭和56年3月	北海道名寄高等学校卒業
昭和60年3月	北海道立旭川高等看護学院卒業
昭和60年4月	国立療養所名寄病院勤務
平成4年6月	名寄市立総合病院皮膚科外来勤務

私が彼女に出会ったのは5年ぐらい前で、優しい笑顔のおとなしい印象の人でした。一人娘と親元で暮らしていて娘さんの事をとても大切に、その優しさのままに患者さんにも接していました。皮膚科外来は患者数の多い外来で1日平均130～140名という忙しさの中で、笑顔で患者さんと接し、お年寄りには特に優しい人でした。患者さんのために何を注意何を变えて行けばよいのかを常に考えている人でした。また、看護婦の育成にも力を発揮して医師会の准看護婦養成所の講師として積極的に取り組み、看護婦として学び続けることの必要性を忘れない人でした。その遺志はご両親に受け継がれ『加藤由利子基金』として名寄短大看護科で学ぶ人の為に使われています。

彼女には多くのことを学ばせていただきました。これからもお互いにより刺激となることを期待していたので、臨時職員から本採用になることを勧め彼女もその決心を固め、娘さんにご両親にその

理解と協力を求めている時でした、悪夢のようなあの日の出来事が起きたのは。当院の多くの医師や看護婦そして多くの部署の人達が彼女の為に、可愛い娘を残して死ねない彼女の為に、一生懸命力を注いでくださいました。その娘さんのあどけない笑顔を見て現実の無情を感じました。2月11日、永遠の旅立ちをされたのです。あときの事は今でも思い出します。そして世の中にはどうしても成し得ないことがあると教えられた事を思い出しました。

わたしたちは多くの人達と共に働き助け合って生きています。人の死は避けられないものでどんな人にもやって来るとは分かっていますが、もう二度とあの悲しい出来事が起こらないように願っています。親として、女性として、看護婦として一生懸命生きた加藤由利子さんの安らかな眠りを祈ります。

外来婦長 岩井 照代